

# リーガル・ラディカリズム ——法の限界を根源から問う

飯田 高 = 齋藤哲志 = 瀧川裕英 = 松原健太郎 編

**担当編集から** 憲法、民法、刑法…。社会生活上、当然必要なものとして存在するそれら実定法を学習すること（「実定法学」）が、皆さんが学んでいる法学部や法科大学院ではメインとなります。ただ、法学はそれだけではなく、視点を少し変えると、「そもそも」「なぜ」「どのようにして」といった疑問がわき、現に存在する実定法の問題や限界などが見えてきます。

本書は、それらを研究する、いわゆる「基礎法学」といわれる4分野——法哲学・法社会学・法制史学・比較法学——の研究者が、6つのテーマを通して現代法の根底にある問題を分析し、基礎法学分野の意義と可能性を探求することを目的として『論究ジュリスト』に掲載した好評連載を単行本化したものです。書籍化にあたっては、6つのテーマごとに、さらに他分野の研究者によるコメントを掲載し、基礎法学分野との対話も目指しました。

「ルールの破り方」など、実は考えたことがなかった刺激的なテーマが並んでいますので、ぜひ基礎法学の思考に挑戦してみてください。(G)

**Point** 法哲学・法社会学・法制史学・比較法学の観点から、現代法の根底にある問題を検討します。

序 本書の試み——「根源から」考えることの意義

## 《第1章 ルールの破り方》

I ルールを破って育てる◎飯田 高/II アメリカ流のルール破り◎溜箭将之/III 「国法」が破られる意味◎桑原朝子/IV 法を無視する義務?◎米村幸太郎/コメント◎唐沢 稯

## 《第2章 デモクラシーと戦争》

I 戦争に抗するリアリズム◎キンチ=ホエクストラ/II 戦争とデモクラシー◎守矢健一/III 末弘徹太郎におけるデモクラシー概念の変質◎長谷川貴陽史/IV デモクラシーと戦争は互いを必要とするか◎郭 舜/コメント◎五百旗頭 薫

## 《第3章 くじ引きの使い方》

I 「くじ引き」の合理性◎大西 楠テア/II 「くじ引き」を統治制度の現実から考える◎馬場健一/III なぜくじで決めないのか?◎瀧川裕英/IV 人事と天命のあいだ◎桜井英治/コメント◎吉田 徹

# リーガル・ラ ディカリズム

法の限界を  
根源から問う

飯田 高  
齋藤哲志  
瀧川裕英  
松原健太郎 編

法の根源から見えてくるものは何か  
いわゆる基礎法学の4分野  
「法哲学・法社会学・法制史学・比較法学」の研究者が  
6つのテーマを通して現代法の根底にある問題を分析し、  
基礎法学分野の意義と可能性を探索する。

有実編  
**LEGAL RADICALISM**

レベル	用途	対象
上級	学習 教養 研究	学部 LS 研究

2023年8月発売/462頁/定価5280円(税込)  
A5判/並製

詳細を  
見る



BOOK INFORMATION

## 《第4章 死者の法的地位》

I 死の害と死後の害◎安藤 馨/II 死・宗教・法◎久保秀雄/III 死者の生かし方◎齋藤哲志/IV 仮構の死者、仮構の土地◎松原健太郎/コメント◎間芝志保

## 《第5章 人の等級》

I ロシア国家の歩みと身分・等級◎渋谷謙次郎/II 事実としての人の等級(?)◎森 悠一郎/III デモクラシーとイソノミー◎川村 カ/IV 法概念としての障害◎吾妻 聡/コメント◎小島慎司

## 《第6章 法の前神々》

I 宗教は法にとって必要か?◎大屋雄裕/II 1987年フィリピン革命憲法のキリスト教的起源◎ブライアン=ティオハンコ/III 宗教法としてのイスラーム法から見た法の正当性について◎両角吉晃/IV 法の前神々、神々の前の法◎尾崎一郎/コメント◎山本健人

## 《第7章 [座談会]編集を終えて——本書の諸議論とこれからの基礎法学》

松原健太郎/飯田 高/齋藤哲志/瀧川裕英

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

